

# 第7期まえばしスマイルプランの取組状況について

2018年11月15日

## 【課題1】 包括的なケア体制づくり

### (1) 基幹型地域包括支援センターの強化

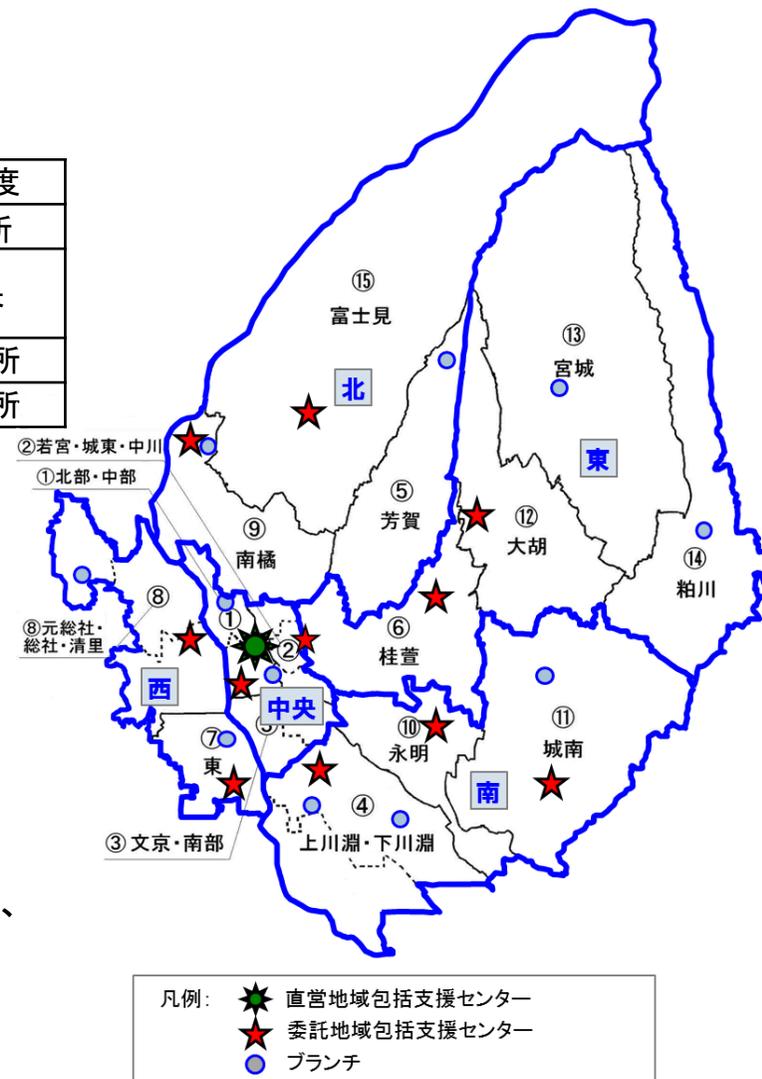
#### ● 地域包括支援センター等の基盤整備状況

	20年度まで	21年度	22・23年度	24年度	25～29年度	30年度
直 営	2か所	3か所	2か所	1か所	1か所	1か所
	中央・東部	中央・東部・北部	中央・北部	中央	中央	中央
委 託	—	7か所	9か所	10か所	10か所	11か所
ブランチ	—	13か所	11か所	10か所	11か所	11か所

- ・直営地域包括支援センターにおける基幹型としての機能を強化するため中央圏域において、委託包括(中央西)を1か所増設した。
- ・地域包括支援センターの人員について、給付管理実績から積算による人員の見直しを行い、各地域包括支援センターの人員配置を厚くすることで人的強化を図った。

#### ● 機能及び支援体制強化の取組状況

- ・直営地域包括支援センターの保健師をブロック担当として配置し、各地域包括支援センターの処遇困難ケースや高齢者虐待ケース等への相談・対応、また、医療と介護の連携ブロック会議、生活支援体制整備企画会議等に出席することにより、後方支援体制の強化を行った。



### 【課題1】 包括的なケア体制づくり

#### (1) 在宅医療・介護連携

##### ● 医療と介護の連携会議(5ブロック)の開催

・開催実績:ブロック毎に年3回程度実施。なお、11月までの実績は以下のとおり

ブロック	中央	東	西	南	北
開催日	7/26 10/18	7/19 10/25	7/20 10/19	7/5 11/15	7/12 11/8

・参加団体等:医師、歯科医師、薬剤師、訪問看護、MSW、ケアマネジャー、リハ職、栄養士、地域包括支援センター等  
・議論された内容とその対応

##### ① 「がん末期」患者の主治医意見書の取扱い

⇒「がん末期」患者の主治医意見書の取扱いが医師会で協議され、医師間の意思統一を図ることができた。

##### ② 口腔内の見方について、職種ごとに異なっている

⇒ 歯科医師会において基準等が提示できるか協議

##### ● 【前橋版】退院調整ルールのメンテナンス会議

・開催実績:病院・ケアマネ全体会議(7月23日)、病院・ケアマネ代表者会議(8月27日)

・参加団体:市内病院、居宅介護支援事業所、小規模多機能型居宅介護事業所、地域包括支援センター、群馬県

・検討内容:平成28年度に作成した退院調整ルールの見直し、平成30年度介護報酬改定に伴う入退院時連携の加算の取扱いによる参考様式の見直し

##### ● おうちで療養相談センターまえばし

・医療と介護の相談対応や各団体の代表者が参加する連絡会における情報交換・共有

・多職種連携や症例検討、市民向け講座等の開催

・地域のサロン等に専門職が出向く「おうちで!!まえばし医療・介護塾」の開催

## 【課題1】 包括的なケア体制づくり

### (2) 認知症ケアのための仕組みづくり

- 認知症初期集中支援体制の充実
  - ・チームの早期介入のしくみとして、市医師会に協力いただきチームの介入が必要な人(家族支援を含む)をかかりつけ医から直接チームにつなげるルートを構築し、10月より実施している。
- 認知症高齢者等見守りネットワークの整備
  - ・SOSネットワーク体制構築のために平成29年度から実証事業として実施している静脈照合の事前登録制度は、保護時の照合実績がなく、市外で保護されるケースもあることから、群馬県警等の関係機関と検討を重ねた結果、平成30年3月より県警主導事業として各警察署が登録データの集約・管理・照合を行える体制を整備し、9月より本実施している。
- 認知症ケアパスの活用
  - ・若年性認知症や相談が増加している免許返納の情報を追加し、充実を図った。
- 認知症カフェの推進
  - ・昨年度より設置数が減少しているため、昨年度実施していた法人や独自で居場所づくりを実施している法人に対し、認知症カフェの主旨等を説明し、登録に向け働きかけをしている。

区 分		第6期		第7期	
		29年度	30年度 9月末	30年度 (見込み)	
認知症初期集中支援チーム					
支援対象事例数	件/年	目標	-	-	50
		実績	32	19	40
SOSネットワーク					
事前登録者数 (累計)	人	目標	-	-	200
		実績	117	134	200
徘徊高齢者位置情報提供サービス					
利用者数(累計)	人	目標	-	-	120
		実績	89	106	130
認知症地域支援推進員等設置事業					
推進員数	人	目標	-	-	2
		実績	1	2	2
認知症ケアパス					
作成部数	部/年	目標	-	-	5,000
		実績	10,000	5,000	5,000
認知症カフェ					
設置数	か所	目標	-	-	26
		実績	24	21	21
認知症サポーター					
登録数(累計)	人	目標	18,000	-	20,500
		実績	20,053	20,834	21,400

注)事前登録者数は、市が直接登録した人数

## 【課題1】 包括的なケア体制づくり

### (3) 担い手の確保・育成

#### ● 介護予防サポーター

・地域の介護予防推進の担い手として、平成30年度も介護予防サポーター養成講座を実施している。また、情報交換会やスキルアップ研修、老人福祉センターで行われる健康まつりにてブースを設け、介護予防の普及啓発している。

#### ● 生活支援体制の整備

・市内の地区社会福祉協議会を中心に、第2層協議体設置に向けて企画会議(27回)、研修会(9回)を開催した。

(9月末時点)

・市社協、地域包括支援センターと共に、地域における交流、見守り、支え合いの3段階の構築に向けて、住民同士の話し合いの場を設定し、少しずつではあるが、地域住民の中に社会参加の重要性や支え合いの必要性が浸透しつつある。

#### ● 訪問型サービスA従事者養成研修の開催

・実施状況:年3回実施(2回実施済み、3回目は2月実施予定)、各7日間。

修了者は52名で参加者の約6割が50、60代となっている。

介護未経験者向け研修のため、ボランティアや家族介護のための知識習得希望者も多く、介護人材だけでなく担い手を養成する機会となっている。

区 分			第6期	第7期	
			29年度	30年度 9月末	30年度 (見込み)
介護予防サポーター					
登録数(累計)	人	見込	850	-	1,150
		実績	1,085	1,085	1,135
認知症サポーター(再掲)					
登録数	人	見込	18,000	-	20,500
		実績	20,053	20,834	21,300
生活支援体制の整備					
生活支援コーディネーター数	人	見込	-	-	16
		実績	6	6	6

## 【課題1】 包括的なケア体制づくり

### (4) 健康づくりと介護予防の推進

#### ● 介護予防・日常生活支援総合事業

##### ・訪問型サービスA

平成30年4月から、サービス提供事業所が1つ増え10事業所となり、利用者数も徐々にではあるが増加傾向にある。

##### ・訪問型サービスB

住民主体型のB型サービスについては、制度設計が困難なことから、今年度内の実施見込みはない。

##### ・訪問型サービスC

平成29年度より継続してサービスを実施しており、チラシ等で周知しているが、利用者は見込みより下回っている状況である。

##### ・通所型サービスA

平成30年4月から、昨年度までの委託方式から指定方式へ変更したことによりサービス提供事業者は増えており、見込みを上回る利用となっている。

##### ・通所型サービスC

包括支援センターの部会において、通所型サービスC参加による効果(維持改善につながっていること)を説明し、各地域包括支援センターが抱える事業対象者のうち適した方のプランに位置づけてもらうようお願いし、概ね見込みどおりの利用者となっている。

区 分			第6期		第7期	
			29年度	30年度 9月末	30年度 (見込み)	
訪問型サービス						
訪問型サービスA 実利用者数	人/年	見込	-	-	40	
		実績	20	50	60	
訪問型サービスA 延べ利用回数	回/年	見込	-	-	2,000	
		実績	204	731	1,500	
訪問型サービスB 事業所数	か所	見込	-	-	10	
		実績	0	0	0	
訪問型サービスC 延べ利用回数	回/年	見込	-	-	120	
		実績	72	10	20	
通所型サービス						
通所型サービスA 延べ利用回数	人/年	見込	-	-	7,000	
		実績	6,195	3,728	8,000	
通所型サービスC 延べ利用者数	人/年	見込	-	-	1,300	
		実績	1,212	643	1,250	
その他の生活支援サービス						
配食サービス 実利用者数	人/年	見込	-	-	670	
		実績	495	484	640	
配食サービス 配食数	食/年	見込	-	-	110,000	
		実績	68,750	42,219	84,000	

## 【課題1】 包括的なケア体制づくり

### (4) 健康づくりと介護予防の推進

- 一般介護予防事業(介護予防普及啓発)

- ・ピンシャン元気体操教室

見込みより参加者が少ないのは、地域のピンシャン体操クラブやふれあいいきいきサロンなどで体操に参加する人が増えていることも要因と思われる。

- ・高齢者健康教育

ピンシャン！健康教室では栄養改善・口腔機能向上を強化した内容で実施し、概ね見込みどおりの参加者となっている。

- ・市主催健康教室

楽食教室(通所型サービスC)を終了した代わりに、運動機能向上と栄養改善・口腔機能向上を複合したプログラムの元気プラス+講座を市内4か所で実施している。

また、減塩食講座を講座名と内容を変更し、栄養・口腔に特化した噛む力をはぐくむ教室やひとり暮らし又は高齢者のみ世帯の方を対象に、自ら介護予防を行うことの手助けと食材の偏りや孤食傾向にある高齢者の会食機会の提供を目的としたからだ健やか昼食会を上半期までに各2回行った。

区 分			第6期	第7期	
			29年度	30年度 9月末	30年度 (見込み)
ピンシャン元気体操教室					
延べ参加者数	件/年	見込	70,000	-	98,000
		実績	66,657	32,591	65,000
高齢者健康教育					
実施回数	回/年	見込	300	-	350
		実績	369	178	310
延べ利用者数	人/年	見込	7,000	-	8,000
		実績	8,347	3,858	7,700
市主催健康教室					
実施コース	コース	見込	-	-	17
		実績	14	7	18
実施回数	回/年	見込	-	-	52
		実績	32	24	56
参加者数	人/年	見込	-	-	1,000
		実績	635	439	980
高齢者健康相談					
参加者数	人/年	見込	40,000	-	53,000
		実績	52,184	33,445	62,400

## 【課題1】 包括的なケア体制づくり

### (4) 健康づくりと介護予防の推進

● 一般介護予防事業(地域介護予防活動支援)

・自主グループ

自主グループの数は見込みを下回っているものの、グループ数は増加している。

・ピンシャン体操クラブ

リハビリ専門職が地域で行っている「ピンシャン体操クラブ」の継続的な参加者に体力測定等を実施し、介護予防効果の測定・評価とアドバイス等を地域リハビリテーション活動支援事業として行っている。

平成30年度の新規登録クラブは1団体と見込みを下回っているが、参加者数は昨年度より増える見込みである。

・介護予防活動ポイント制度

登録者は着実に増加しており、登録者向けに実施している施設でのボランティア体験会では、内容(施設・日程)を変更して開催し、実際の活動につながるよう支援している。

・その他

ピンシャン体操クラブを実施している介護予防サポーターやサロンを実施している担い手を対象に体操講習会を実施している。

区 分			第6期	第7期	
			29年度	30年度 9月末	30年度 (見込み)
自主グループ					
自主グループ数	団体	見込	185	-	240
		実績	206	209	210
ピンシャン体操クラブ					
登録団体数	団体	見込	-	-	70
		実績	59	60	60
延べ参加者数 (65歳以上)	人/年	見込	-	-	31,500
		実績	33,747	-	34,000
介護予防活動ポイント制度					
登録実人数	人	見込	1,050	-	1,250
		実績	1,087	1,173	1,200

## 【課題2】地域における施設・住まいの最適化

### ■ 平成30年度の整備状況

施設(サービス)区分		単位	第6期計画	第7期計画							
			29年度末	30年度		31年度		32年度		合計	
			実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
介護老人福祉施設 (特別養護老人ホーム)	広域型	か所	26(28)	-	-	0	-	0	-	-	-
		定員	1,715	50	10	0	-	0	-	50	10
	地域密着型	か所	7(7)	1	0	0	-	0	-	1	0
		定員	130	29	0	0	-	0	-	29	0
	合計	か所	26(35)	1	0	0	-	0	-	1	0
		定員	1,845	79	10	0	-	0	-	79	10
介護老人保健施設		か所	12(14)	-	-	0	-	0	-	-	-
		定員	1,034	10	10	0	-	0	-	10	10
介護医療院		か所	0	0	0	2	-	0	-	2	0
		定員	0	0	0	13	-	0	-	13	0
特定施設入居者生活介護 (介護付き有料老人ホーム)		か所	10	1	0	0	-	0	-	1	0
		定員	600	80	0	0	-	0	-	80	0
認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)		か所	38	1	選定中	2	-	0	-	3	0
		定員	459	9	選定中	27	-	0	-	36	0
小規模多機能型居宅介護		か所	18	1	選定中	1	-	0	-	2	0
		定員	491	29	選定中	29	-	0	-	58	0
看護小規模多機能型居宅介護		か所	0	0	0	1	-	0	-	1	0
		定員	0	0	0	29	-	0	-	29	0
定期巡回・随時対応型訪問介護看護		か所	1	1	0	0	-	0	-	1	0

注)カッコ内は別指定となっているユニット型施設分を含んだ数値

## 【課題2】地域における施設・住まいの最適化

### ■ 平成30年度の選定実績

施設種別	介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム)	介護老人保健施設
整備区分	転換	増床
選定法人	社会福祉法人上川会	医療法人社団中嶋会
施設名	特別養護老人ホーム春日の里	介護老人保健施設やまぶき
所在地	上佐鳥町774番地(上川淵・下川淵圏域)	小屋原町977番地3(城南圏域)
整備数	10床	10床

### ■ 整備内容の見直し、進め方等

施設種別	整備数	見直し、今後の進め方
特別養護老人ホーム(広域型)	40床	上位計画との関連により選定年度を平成31年度以降とする
特別養護老人ホーム(地域密着型)	29床	公募要件を変更して、再公募を実施する
特定施設入居者生活介護 (介護付有料老人ホーム)	80床	上位計画との関連により選定年度を平成31年度以降とする
小規模多機能型居宅介護と認知症対応型 共同生活介護(1ユニット)の併設	1か所	認知症対応型共同生活介護を2ユニットで整備することを 認めて再公募を実施
定期巡回・随時対応型訪問介護看護	1事業所	事業周知を進めた上で、平成31年度に再公募を実施する

## 【課題3】ケアマネジメントの質の向上と給付の適正化

### ■ ケアマネジメントの質の向上

#### (1) ケアマネ全体研修会の実施

開催日:平成30年8月10日

開催場所:前橋市総合福祉会館

参加者:市内の介護支援専門員247名

主な内容:①前橋市が求めるケアマネジメントの方針について伝達

②平成30年度報酬改定から考える未来

③ケアマネジメントの質の担保

#### (2) 自立支援型地域ケア個別会議の実施

・実施に向けて他市町村を視察

渋川市(10月16日)、高崎市(10月17日)、足利市(10月25日)、玉村町(11月21日)

・平成30年度県モデル事業として、平成30年12月から平成31年2月にかけて実施予定

目 的:自立支援・介護予防の観点を踏まえ、多職種からの専門的な助言を得たケアマネジメントの実施

実施回数:3回

実施内容:①自立支援型地域ケア個別会議の実施方法検討

②専門職の参加体制及び役割の確認

③各包括支援センターの実際のケースを用いた模擬会議の開催



## 【課題3】ケアマネジメントの質の向上と給付の適正化

### ■ 給付の適正化

- 課題に対応する取組として、各種研修の実施、ケアプランの点検のほか、面談方式によるケアマネジャーへの伝達・指導や医療情報との突合など、概ね計画どおりに実施できている。
- 給付費通知の送付による市民からの問い合わせから、不正請求の指導につながる案件も発見されており、実施効果も見られているが、給付実績の活用では有効な手法等について検討が必要である。
- 引き続き、介護サービスの受給者を適切に認定し、受給者にとって過不足なく、自立支援に沿ったサービスを事業者が適切に提供するよう、また、介護保険制度の持続性の確保と安定的な運営のため、介護給付適正化計画に基づいた取組を着実に推進していく。

区 分		第6期	第7期	
		29年度	30年度 9月末	30年度末 (見込み)
要介護認定の 適正化	目標	-	-	研修実施
	実績	調査員3回 審査会委員1回	調査員1回 審査会委員0回	調査員2回 審査会委員1回
ケアプランの点検 (件/年)	目標	-	-	64
	実績	67	35	64
住宅改修・福祉用具 貸与点検	目標	-	-	通年実施
	実績	通年実施	毎月実施	通年実施
医療情報との突合・ 縦覧点検	目標	-	-	全件 毎月確認
	実績	医療情報突合 全件3回 全件縦覧毎月	医療情報突合 全件2回 全件縦覧毎月	医療情報突合 全件3・4回 全件縦覧毎月
介護給付費通知送付 (回/年)	目標	-	-	3
	実績	3	1	3
給付実績の活用	目標	-	-	数回実施
	実績	2回実施	未実施	1回実施